



修験道の霊山「求菩提山」 甦る修験の至宝 ～求菩提山史跡修復整備（福岡県豊前市）～

株式会社アーバンデザインコンサルタント 棚町修一・塚田和哉・上野一平

国史跡「求菩提山」には数多くの修験道の遺構が残されているが、集中豪雨や樹木の巨木化等により変形・崩落が散見されるようになった。史跡地での石垣、参道、樹木は、歴史的景観を構成する重要な要素となっているが、樹木の巨木化による史跡への悪影響も年々深刻さを増している。石垣と樹木との関係を検証すると、石垣の変形・崩落の要因となっている場合と根茎が石組みの結束をより強固にしている場合が見られ、景観の保全と史跡価値の保全とのバランスを考慮しながら設計・監理を行った。また、洗掘された参道については、土の素材感、耐久性、景観面を考慮し、土と硬化剤との配合を行い、歴史的景観との調和を図った。

作品概要

作品名：求菩提山史跡修復整備～甦る修験の至宝～
所在地：福岡県豊前市大字求菩提地内
発注：豊前市教育委員会，宗教法人国玉神社
設計：株式会社アーバンデザインコンサルタント
監理：株式会社アーバンデザインコンサルタント
設計期間：平成17年6月～平成18年3月
平成19年9月～平成20年3月
規模：2,000 m²
主要施設：石垣，参道

作品評

この作品は、風雨や樹木の影響で崩落した求菩提山の国指定史跡地内の遺構・遺物の修復のための設計と施工監理を行ったものである。

求菩提山中に広範に点在する坊跡、石垣、参道や修行に使われた行場の道など、数多くの遺構の分類とその実態を調査し、変形や崩落の様子と修復の課題を整理している。景観や利用に配慮しつつ史跡の保全を図るための課題である石垣に影響する既存樹木への対応や、参道の路面の工夫など、幾つかの工法を試験施工により検証を重ねながら最善策を選択し、従来の伝統技術に加え新技术を導入して成果をあげている。本作品により、史跡の全貌と修復のプロセスが記録に残され、また、保全と景観や安全性に配慮された石垣や参道が実現したことは意義深いことである。このように造園技術の探求のプロセスとその成果が評価された作品である。

その一方で、もっともPRすべき修復のプロセスについて、応募資料に記載された写真や図面に技術を具体的に説明する記述が乏しい点が惜まれる。



求菩提山



甦る参道



甦る石垣

